

情 報 公 開 文 書

研究の名称	胆道狭窄病変の鑑別診断における経口胆道鏡下生検の有用性に関する単施設後方視的観察研究
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系 内科学第三講座 安田 一朗
研究の概要	<p>【研究対象者】 2018年9月1日から2021年12月31日の間に胆道狭窄病変に対して経口胆道鏡検査(POCS)を施行された患者さんを対象としています。</p> <p>【研究の目的・意義】 胆道鏡検査は直接胆道内を内視鏡で観察する検査であり、最近では内視鏡検査だけでなく、碎石などの内視鏡治療としても広く用いられるようになりました。また、内視鏡技術の進歩とともに画質や操作性が向上し、さらに直視下に組織採取が得られる細径の生検鉗子が開発され、より低侵襲に胆道疾患の診断が施行可能となりました。</p> <p>胆道狭窄病変においては、これまで逆行性胆道造影を施行した上で、狭窄長、狭窄の程度を評価し、透視下生検、胆汁細胞診、ブラシ擦過細胞診でその病理組織診断を行ってきましたが、その正診率は十分とはいえませんでした。</p> <p>近年、操作性の良いディスプレイ経口胆道鏡(SpyGlass DS: Boston Scientific 社)が発売され、臨床応用されるようになったことから胆管病変の診断においても有用であることが報告されるようになりました。</p> <p>そこで今回我々は胆道狭窄病変を対象として、そこで今回我々は胆道狭窄病変を対象として、その組織診断能をと安全性を後方視的に検討することとしました。</p> <p>【研究の方法】 胆道狭窄病変を対象とした経口胆道鏡による組織診断能と安全性を明らかにすることが、本研究の目的です。本研究は、2018年09月01日から2021年12月31日の間に胆道狭窄病変に対して経口胆道鏡を施行された患者さんを対象として、カルテなどから臨床情報を収集し解析を行います。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年03月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 この研究の解析結果は、専門学会への発表、論文化を通じ公表されません。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学医学部内科学第三講座において診療情報が解析されます。施設責任者は研究責任者である安田一朗です。
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学学術研究部医学系 内科学第三講座 教授 安田 一朗

研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7301 FAX 076-434-5027 E-mail jun21029@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院第三内科 松野 潤
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------